

IAECE 2022 News Letter

International Association of
Early Childhood Education

国際幼児教育学会
会報 75号

2022.12

<http://www.iaece.org>



- P.1 巻頭言 鄭 錦子
- P.2 第43回大会を終えて
シンポジウム報告
ワークショップ報告
- P.8 学会功労賞・研究奨励賞 受賞者報告
委員会報告
- P.10 日本の幼児教育の魅力
- P.11 21年度決算報告 22年度予算案報告
- p.12 支部活動報告
部会報告
事務局より

韓国の超少子化時代における 乳幼児教育機関の運営課題

韓国大邱大学校 名誉教授 鄭 錦子



韓国は超少子化時代であり、現在、「どうすれば急速な人口減少を防ぐことができるか」「人口減少が避けられない未来が待っているのであれば、どのような政策を展開すべきか」という 이슈が幼児教育機関の運営において最大に関心事です。

韓国統計庁の人口動向調書(2012～2021)によると、合計特殊出生率が2015年1.24人、2019年0.92人、2020年0.84人、2021年0.81人、2022年10月現在は0.73人となっています。このような出生率の大きい変化は、乳幼児教育機関に在園する乳幼児数にも変化をもたらしています。幼稚園の場合は、2017年から幼児数が減りはじめ、2019年には前年比増減率が-6.28%と最も大きく減少し、その後も減り続けています。機関数は、2018年に前年比-2.04%と最も大きく減少し、現在も減少傾向が続いています(教育部・韓国教育開発院、教育統計年報、2021)。保育園も同様に、乳幼児数が2014年から継続的に減少し、2020年は前年比増減率-8.84%と最も大きく減少し、その後も減少傾向が続き、機関数も2019年に前年比増減率-4.60%になり、さらに2021年は-5.96%と最も大きく減少しています(保健福祉部、保育統計、2021、2022)。

幼稚園や保育園に関連して予測される未来の社会変化の

うち、最も大きな影響を与える要因は少子化による学齢人口の減少です(パク・チャンヒョンほか「未来環境対応幼稚園・保育園造成方案研究(1)」2022)。それにより、超少子化への対応が求められ、海外先進諸国の取り組みに注目するとともに、政策・戦略に関する提言や積極的な解決策の提示などの多角的な議論と研究が継続的に行われています。

超少子化時代の持続可能な乳幼児教育機関の運営課題を検討するために、幼児教育現場のリーダーたちは、「韓国社会の乳幼児教育機関運営の持続可能性の鍵(key)はどこにあるか」という問いに対して、多方面からの意見に耳を傾けています。リーダーたちはこのような課題に対して、固有の教育哲学と信念の再定立はもちろん、児童観・教育観などの価値を教職員とどのように共有するのか、また、特性化の方向性をどこに置くのかについて解決策を模索しています。そして、リーダー自らのパラダイム転換が必要であることを認識し、プログラムの選定と妥当な手続きおよび要求の反映など改革のために努力しています。乳幼児教育機関の対象を拡大するために、時間制保育や初等学校放課後教室を運営し、これまで個別・独立的に使用していた施設を共同で使用できるようにするとともに、オープンハウスを開催するなどの取り組みが期待されているところです。

第43回大会を終えて

第43回大会実行委員長 久留米信愛短期大学 椎山 克己

今大会は「持続可能な社会実現のための幼児教育」～SDGsの視点から考える幼児教育とは～のテーマのもと、9月24日～10月7日にオンラインで開催されました。24日のシンポジウムでは日本、アメリカ、韓国、中国の4か国のSDGsの視点からとらえた保育実践が示されました。25日には午前中に「アート保育」と「身体表現」のワークショップ、午後から絵本部会と音楽部会が開催されました。それぞれ、

グループセッションや実技実践を取り入れられ、双方向性のある内容が展開されていました。研究発表も日本語部会14件、中国語部会21件の発表がWEB上で行われ、無事に大会を終えることができました。

シンポジウム・ワークショップ・部会にご登壇いただきました先生方、ご参加いただきました皆さま、ご協賛くださいました企業の皆さまに心からお礼申し上げます。

第43回大会事務局より

第43回大会実行委員会事務局 近畿大学九州短期大学 久世 安俊

まずはご参加いただきました皆様に感謝を申し上げます。皆様のご協力のおかげで無事に終了することが出来ました。

今回、実行委員の二宮先生が所属されている聖隷クリストファー大学に本部を設け、9月24日・25日の2日間のプログラムを進行いたしました。前日の23日から静岡入りしたのですが、よりによってその日の夜に台風15号が直撃。翌日の会場移動も大丈夫だろうかと余計な緊張を感じることに(汗)。結局、当日は曇りつない晴天！今となっては笑い話となりました。

前回大会のノウハウを参考に実行委員13人で奮闘いたしました。特に3言語への資料対応はとても大変でした。シンポジウム[米国・中国]担当：福島さやか先生(福岡女学院大学)、シンポジウム[日本・韓国]担当：上田浩平(近畿大学九州短期大学)、ワークショップ・部会担当：江川靖志先生(近畿大学九州短期大学)には、講演いただく先生方とのやり取り、修正等、入稿間際

まで細かな確認をしていただきました。

ZOOM操作については古賀琢也先生(千葉明德短期大学)、上田浩平先生にご担当いただきました。本番前日のシステム確認の時から状況把握と改善、発展と分単位で進歩される様子はとても心強かったです。インターバルでのスライド画像・音楽担当の中野良子先生、熊谷美絵先生(どちらも近畿大学九州短期大学)には質疑応答でも意見を多くいただきました。

ワークショップ身体表現をご担当いただきました範衍麗先生(大阪成蹊短期大学)、桐山由香先生(大阪青山大学)、岡田知也先生(香川大学)のみごとなチームプレイにも感動しております。特に、今回は中国語部会の発表も同じWeb上で実施いたしました。中国語のわからない私にとって発表登録された先生方との対応はなかなか大変でしたが、範先生と当日通訳もしていただきました青春さん(名古屋市立大学大学院生)のご尽力をいただき乗り切ることが出来ました。

Early Childhood Education for a Sustainable Society

-Early Childhood Education from the Perspective of the SDGs-

シンポジウムを終えて(日本)

名古屋市立大学 上田 敏丈

第43回大会では、「日本の保育におけるSDGsへの取り組み」ということで、保育園園長の中村先生、本学の同僚でもあり、ESDを専門とする曽我先生にご登壇頂きました。近年、社会の中で、SDGsに関するニュースをよく目にするようになりました。しかし、一方でこれらの目標が一過性のものとして消費されてしまう

ことについて、若干の懸念を抱いております。このような背景の中で、具体的な取り組み、それから、ESDやSDGsが目指す変革する人間性自体を寛容していくことの重要性を伝えたく、企画いたしました。本シンポジウムをきっかけとして、これからも考え続けていければと思います。

シンポジウムを終えて（日本）

名古屋市立大学 曾我 幸代

国際幼児教育学会 43 回大会シンポジウムで「SDGs 時代における ESD の意義：社会変容に向けて」というタイトルで話す機会を頂戴しました。SDGs 時代、すなわちそれは、将来予測が困難で、不確実性・複雑性が高い社会に生きているということの意味します。子どもたちが暮らす社会環境がどうなっていくのか、幼児教育のこれからについて考える機会になればと思い、

上田先生からのお声かけにお応えしました。終わった後は、全体のディスカッションの時間を大幅に奪うほど予定時間を超過してしまい、申し訳なさでいっぱいでしたが、子どもたちの時間を保障する幼児教育の重要性を改めて考えさせられる機会となりました。ありがとうございました。

大倉山元気の泉保育園 中村 聖子

第 43 回大会シンポジウムで発表の機会を頂き、ありがとうございました。自園で大切だと考え、取り組んでいることを皆様と共有させていただけたことに感謝いたします。同時に、世界各地で取り組まれている保育の実際を知ることができ、視野を広げることができました。園の環境は様々であり、豊かな自然の中で保育を行うことができることには憧れを覚えました。一

方で、日本の都市部の多くの園には、ないものねだりをするにはできない現実もあります。今ある環境の中で、子どもの経験を工夫し、心を育てる保育を行うためにも保育者には多くの事例知識が必要であるとも思いました。毎日の生活の中から見つける SDGs に子どもたちと取り組んでいきたいと思えます。

Early Childhood Education for a Sustainable Society
-Early Childhood Education from the Perspective of the SDGs-

Comments on the 43rd International

Early Childhood Education Conference

California State University Noriko Saito

The 43rd conference was my final participation as a speaker on the symposium. I started attending the 3rd conference in the 80' s which in comparison with today' s conference immense progress, evolution and there is a broader attendance of participants internationally.

I felt that the 43rd conference theme covered more important issues on humankind, which is the "Sustainable Developmental Goals "and put these concepts into Early Childhood Education Practices. Every nation participated in the conference provided meaningful and practical concepts and ideas of SDGs which allow us to compare and contrast. The workshops were also interesting, and the research papers were outstanding and made meaningful

contributions to the early childhood education. I was able to make a few comments on some research paper and appreciated sharing ideas.

Even though the 43rd conference was a virtue conference again, I felt that it was very successful and made significant impact in the field of Early Childhood Education. I understand and I am aware of the preparation and the planning of a conference is a complicated endeavor. I do appreciate, the 43rd Executive Committee Chairperson, Prof. Shiyama and all people involved to have made this conference so successful and significant. I hope the future conference will continue to progress and to evolve with innovative ideas and research by young scholars and early childhood professions from many more nations.

第 43 回国際幼児教育学会のコメント

■ カリフォルニア大学 斎藤 法子

第 43 回大会国際幼児教育学会は、私がシンポジウムのスピーカーとして参加する最後の学会でした。私は 80 年代に第 3 回学会から参加し始めました。そのころの学会と現代の学会と比較して、計り知れない進歩と進化を遂げており、特に国際的に幅広い参加者が居ることです。

今大会のテーマは、人類にとってより重要な課題である「持続可能な開発目標」を取り上げ、その概念を幼児教育の実践に用いるシンポジウムの講演でした。シンポジウムに参加したすべての国が、比較対照を可能にする意味のある実用的な SDGs の概念とアイデアを提供してくれました。ワークショップも興味深いもので、研究論文は傑出しており、幼児教育に有意義な貢

献だったと思います。いくつかの研究論文にコメントをすることができ、アイデアをシェア（共有）できたことに感謝しています。

第 43 回大会国際幼児教育学会も去年に続き、またオンラインの大会ではありましたが、幼児教育の分野に大きな影響を与え、大成功に終わったと心から感じました。私は、学会の準備と計画が複雑で大変な作業であることを理解し、認識しています。第 43 回大会実行委員長、椎山教授をはじめ、関係者の皆様のおかげで、この学会は非常に成功し有意義なものになりました。将来の学会が、より多くの国からの若い学者や幼児教育専門家による革新的なアイデア又研究によって発展し、又進化（進展）し続けることを願っています。

Early Childhood Education for a Sustainable Society

-Early Childhood Education from the Perspective of the SDGs-

A reflection of the 43rd IAECE Conference

■ Pierce College, California Miyuki Yatsuya-Dix

I believe the 43rd conference of the International Association of Early Childhood Education was a success. Congratulations to all educators who shared their passion toward their research, studies, and practices in Early childhood education.

I would like to acknowledge Chairman, Mr. Nakatsubo, other professors and educator's leadership and the hard work that he put into this conference. I also deeply appreciate IT staff who were there to support this conference to have a huge success.

It was very interesting and relevant topic to share many studies. I was very excited and enjoyed listening to sustainability as global issue and what we can do with educators and the children to take a part of the issue. I, myself was excited to present and share what was happening in Los Angeles, California with Dr. Saito.

I wish we could have more time to be with an audience and discussing and sharing this important issue. I believed that everyone who participated and attended

this conference was able to take many important pieces from many topics, gain new knowledge, and open their perspective throughout the conference. I really do prefer to have the conference face to face as we did before.

It was very shocking to hear when Dr. Saito announced that this would be her last speech at IAECE. I would be extremely sad if this is true. I felt a great honor to be able to be a part of her presentation. Dr. Saito has been my great mentor for last 25 years and I am grateful, and I have been very lucky to be around her and getting professional support throughout years. I hope that we all who know Dr. Saito could be able to acknowledge her amazing work and dedication for IAECE and education.

I wish you all another healthy and safe year and hope to see everyone in person next time.

All the Best,

基于“活教育”理论的可持续性发展之感悟

一参加第 43 届国际幼儿教育学会的体会

本次会议充分体现了“加强对儿童的生态文明教育，既是落实生态文明战略的重要举措，也是符合儿童天性和发展需要的一项重要工作，应该切实抓早、抓好”的思想。孩子具有对自然、环境、人际关系和他所处的世界都有自我认知的兴趣和正向的情感。因此，我们以“可持

续发展目标”为导向，以陈鹤琴先生的“活教育”理论为指导，结合云南本地实际，用先进教育理念与方法，建构出具有云南文化特色的幼儿园课程。

我们愿意并积极参与践行可持续发展，加强幼儿文化认同的幼儿园教育的探索与实践。

Early Childhood Education for a Sustainable Society

把每一个幼儿培养成有持续发展可能之人

中国华东师范大学 周念丽

第 44 届国际幼儿教育学会主题是幼儿的可持续发展。联合国于 2015 年提出的“可持续发展目标”（Sustainable Development Goals, SDGs）的核心内容之一就是让每一个儿童都能成为具有理解和尊重多元生命文化和发展的知识、胸怀天下的主人翁。学会选择 SDGs 意义重大。网络暴力游戏和国家间的冲突，

幼儿疏于对他文化的理解、无法悦纳和尊重他文化的现象有所增加，人与人之间的隔阂、误解甚至是敌意在蔓延。在本次大会上日本、美国、韩国以及中国的学者，在深入阐述本国的幼儿教育文化特点同时，又以跨越国界的视野深入阐述了培养幼儿对他文化的理解和悦纳的思考和探索，这将有助于将幼儿培养成可持续发展之人！

幼児一人一人を持続可能な人間に育てる

華東師範大学 周念麗

第 44 回国際幼児教育学会のテーマは幼児の持続可能な発展である。国連が 2015 年に提案した「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals, SDGs) の核心的な内容の一つは、子供一人一人が多様な生命文化と発展を理解し尊重する知識を持ち、天下を抱く主人公になることだ。

学会は SDGs を選択することを学ぶことの意義は大きい。ネットの暴力と国家間の衝突、幼児が彼の文化に対する理解を怠り、彼の文化を受け入れ尊重できない現象が増加し、人と人との隔たり、誤解、敵意が蔓延している。

今回の大会で日本、米国、韓国及び中国の学者は、自国の幼児教育文化の特徴を深く述べるとともに、国境を越えた視野で幼児の彼の文化に対する理解と悦納を育成する思考と探求を深く述べ、これは幼児を持続可能な発展の人に育成するのに役立つだろう！

-Early Childhood Education from the Perspective of the SDGs-

「生きる教育」の理論に基づいて SDGs を悟る

中国雲南省昆明市機関幼稚園 邢保華

今回の学会は子どもに生態文明教育、即ち生態文明戦略を実行する重要性を十分に示したものだと思われまます。これは子どもの成長しているルールによって、彼らの発達を促進することであり、なるべく早めに、確実にしなかなければならないことでもあります。

子どもは自然、環境、人間関係および居る世界に対して認知する興味とポジティブな感情を持っています。ですので、「SDGs」の目標を達成する意欲を持ち、陳

鶴琴先生の「生きる教育」理論に基づいて、雲南省の実情に合わせて、先進な教育理念と方法を用いて、雲南省が持っている独特な文化特徴が見える幼稚園のカリキュラムを構築すべ秋だと考えます。

我々は SDGs の目標を的にし、幼児に文化のアイデンティティを持たせる幼稚園の教育に関する探索及び実践をずっと意欲満々で実行したいと思っています。

第 43 回大会のシンポジウムに参加して

■ 韓国慶星大学校 李 妍承

こんにちは。韓国の慶星大学校幼児教育科の李妍承と申します。この度は、国際幼児教育学会の第 43 回学術大会において、持続可能な発展という新しい生き方と価値、態度を育む幼児人性増進プログラムのモデル開発について発表する機会をいただき、心から感謝申し上げます。

今回、絵本を活用したプログラムの開発を目指し、2019 年改訂の幼稚園教育課程における目指す人間像、持続可能な発展と関連した幼児教育内容を紹介してい

ます。また、持続可能な発展における核心的価値と幼児人性徳目を抽出し、そのような人性を育むための効果的媒体として絵本を位置づけ、プログラムの目的と目標、教授・学習プロセス、評価方法などについて検討を行いました。本発表を通して、各国の幼児教育における SDGs の考え方についても意見交換を行うことで、貴重な研究交流の機会となりました。今後も持続可能な発展につながる幼児教育の在り方についてさらに深めていきたいと考えます。

韓国の保育における SDGs への取り組み

■ 聖徳大学 森 貞美

第 43 回大会シンポジウムにおいて、慶星大学校の李妍承教授と幼児教育科博士課程の朴宗銘さんが、韓国の保育における SDGs への取り組みとして「絵本を活用した持続可能な発展のための幼児人性増進プログラム・モデル開発」というテーマで発表してくださいました。今回のシンポジウムでは、発表資料の翻訳及び大会当日の通訳などを担当し、私自身も会員の皆様と大変有意義な研究交流を行う機会をいただきました。

本発表では、持続可能な未来を築いていくために、

幼児期からその土台となる人格形成を目指し、絵本を活用した幼児教育プログラムの開発を試みています。持続可能な発展のための幼児人性の徳目として、尊重、配慮、責任、世界市民意識、共同体意識を抽出し、このような徳目を育むために絵本をどのように活用すればいいのかについて述べており、大変示唆に富む結果を示していました。当日ご参加くださり、貴重なご質問ご意見をお寄せくださった会員の皆様に心から感謝申し上げます。

**September 24 (Sat) -
October 7 (Fri), 2022**

**Symposium : September 24
Workshop : September 25
Research Presentations:
September 24 - October 7**

**Webinar
Webcasting**

**Early Childhood Education for a Sustainable Society
~ Early Childhood Education from the Perspective of the SDGs ~**

造形ワークショップ

■ 心の色・生きた線 アトリエ REI レイこども舎 岡本 礼子



テーマにした「心の色・生きた線」とはということの意味するものか、リモートで自分自身と向かい合う時間に考えてほしいと思いました。子供たちが「心の色、生きた線で」描いた母の顔、父の顔、子供が、大地の上で感じた思いを色や線に描いた強い線や優しい色一枚の絵、心の中にある思いが見えた絵の中の色や線を、「心の色、生きた線」とワークショップの中で呼んでいました。誰でも知る芸術家のピカソやルノ

ワールの絵は、まさに人間の心にある色や線を表そうとしたカタチや色の作品です。子供たちの素直に画面と向き合う動画を交えながら、参加された方々の今の気持ちのあらわれたテーマ「わたし」が出来上がったのではないかと思います。リモートでワークを行う難しさを感じながらも、このリモートならではのワークがあることを感じることができました。ご参加ありがとうございました。

身体表現ワークショップ

大阪成蹊短期大学 範 行麗 大阪青山大学 桐山 由香

身体表現のワークショップでは、手遊び、ごっこ遊び、ダンスなどの身体表現遊びを一緒に体験していただいた後に、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園での実践の様子を動画で紹介しました。Zoom開催ではありましたが、多くの方が楽しそうにご参加いただき有難うございました。

身体表現遊びは、ただ楽しいだけではなく、子ども

の模倣欲求、同調欲求、交流欲求を満たすと同時に、イメージの共有、文化の伝達などが可能となります。模倣であれ独自の表現であっても、繰り返し表現することにより、表現力が豊かになります。これから子どもが自ら表現しようとする意欲を大切にしながら、たくさん身体表現遊びを取り入れましょう。

絵本部会ワークショップ

■ 共に生きるかたちの再考—Storytime でひとを結びコミュニティを創造する試み

玉川大学 松本 由美

絵本部会ワークショップは、絵本部会会員で宇都宮大学教授の石川由美子先生による講演（「共に生きるかたちの再考—Storytime でひとを結びコミュニティを創造する試み」）でした。読み合い遊びの活動を、公共図書館での Storytime に発展させた活動は子どもが日常生活と絵本の物語世界を自由に行き来しながら、物語の文脈で子供と大人が遊べる時空を意図したものでした

が、さらに、そこに関わるひとの間に、有機的なネットワークが構築されたそうです。改めて絵本や物語の力を感じる一方、ひととひととの関係性こそが、絵本や物語の力を引き出すのだと深められた心温まるひと時でした。詳細は、絵本部会通信 17 号に紹介されていますので、併せてご覧ください。



音楽部会ワークショップ

■ 日本とノルウェーの音楽教育から SDGs の視点を考える

近畿大学九州短期大学 久世 安俊

音楽部会をご担当いただきました二宮貴之先生（聖隷クリストファー大学）とモーテン・J・ヴァテン先生とのやり取りは漫才そのもの。同門による実践はとても楽しむことができました。

システムの進化には驚きばかりでした。もっと有効

なやり方があるのかもしれませんが、前回大会を真似るのが精いっぱいだったという感想です。しかし実行委員の先生方との出会いと協働は大きな財産となりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

2022 年度 学会功労賞・研究奨励賞の受賞者報告

International Association of
Early Childhood Education

学会功労賞：韓国慶星大学校 李 妍承

〈選考理由〉

優れた研究業績はもちろんのこと、国際幼児教育学会の発展に貢献された会員から、今回は李 妍承氏が選考されました。

学会功労賞受賞のご挨拶

皆様、韓国の釜山からご挨拶申し上げます。慶星大学校の李妍承です。この度は、国際幼児教育学会から学会功労賞をいただき、大変光栄に存じます。中坪史典会長を始め、理事の先生方、会員の皆様に心から感謝申し上げます。私は 2005 年の第 26 回大会から国際幼児教育学会の皆様と交流を始め、これまで学術大会のシンポジストとして研究発表を行い、2011 年には韓国慶星大学校で第 32 回大会を開催するなど、様々な学術交流を行ってきました。最近では、COVID-19 の影響によりオンライン開催となっている中、大会シンポジストとして韓国の教育実践について報告し、大変貴重な研究交流の機会となりました。今後においても日韓の幼児教育の充実と更なる発展のために活発な学問的交流を目指していききたいと思います。この度の受賞に重ねて御礼申し上げます。

韓国慶星大学校 李 妍承

研究奨励賞：名古屋大学大学院 エル・アマンダ・デ・ユリ A・S アズミ・ムクリサフ アユ・アズハリヤ 内田 直義 神内 陽子 千田 沙也加

〈選考理由〉

日本のイスラーム保育園における多文化保育の実践事例を取り上げ、ムスリム・コミュニティ内部の多様性とムスリムの子どもの小学校進学に着目し、様々な背景の保育者や保護者、子どもらが集う場としての保育空間とその保育のありようが描き出されています。多様性の尊重が求められる現代社会の中で、特定の宗教を持つ子どもに対する保育や教育をどのように行うのか、価値観も含めて読者に考えさせられる論文となっており、今後の研究の発展や将来性が期待されるものです。

研究奨励賞を受賞して

この度は、拙稿「日本のイスラーム保育園における多文化保育の実践—保育者と保護者への聞き取り調査から—」に対し、研究奨励賞をいただき大変光栄に存じます。審査委員会・編集委員会の先生方をはじめ、そのほか本論文に関わってくださった全ての皆さまに感謝申し上げます。今回の受賞を励みにして、今後もより一層研究に励んでいきたいと思っております。

名古屋大学大学院 エル・アマンダ・デ・ユリ A・S

✉ 委員会報告

INFORMATION

■ 機関紙編集委員会

委員長 上田 敏文

すでにお手元に届いたかと思いますが、国際幼児教育研究第 29 号が発刊されました。本号では、26 本の論文が投稿され、厳選な査読から、10 本の論文が採択されました。近年は国際幼児教育学会の名前にふさわしく、国際的な論文や、海外に周知したい日本の優れた保育実践、保育の歴史などにアプローチした論文が多いように思います。

2023 年 1 月になりますと、第 30 号の論文投稿期間となります。節目となるこの号に、皆様からのご投稿をお待ちしております。

■ 会報委員会

委員長 岡本 礼子

75 回会報より、WEB 配信となりました。配信が遅れ、大変申し訳ございません。皆さまからの情報を見やすく、配信できますように工夫していきたいと思っております。アメリカ、中国、韓国、そして日本の国際幼児教育学会ならではの配信の工夫ができるようにと思っております。海外の新鮮な情報から、皆さまの実践に役立つことを期待しております。また、その他の海外の情報もぜひお寄せください。国際幼児教育学会の会報が、幼児教育の世界全体での共有となれますことを、ささやかに期待しております。

■ 渉外委員会

委員長 森 貞美

国際幼児教育学会第 43 回大会において、「持続可能な社会実現のための幼児教育－SDGs の視点から考える幼児教育とは－」というテーマでシンポジウムが開かれました。日本・米国・韓国・中国の研究者と実践家の皆様から、各国の方向性及び具体的実践に関する発表が行われ、大変有意義な学術交流の場となりました。

■ 研究委員会

委員長 山岡 テイ

第 52 回研究会は、大庭三枝先生（福山市立大学）と学生達による平和の象徴である折り鶴をモチーフにした「平和教育」の実践報告に加えて、ウクライナの子どもの現状報告もありました。情報委員会の YouTube 配信は、北欧諸国からの反響も多く、480 回の視聴数でした。2 月 22 日 13 時の第 53 回研究会は「ひとりっ子とは：ひとりっ子の計量分析」をテーマに、稲葉昭英先生（慶応義塾大学）に報告いただきます。長年、大規模な全国調査に関わっておられる稲葉先生ならではの「ひとりっ子と保護者」について家族社会学の見地から、ひとりっ子がどのように育ったのかを総合的に検証分析していただきます。

詳細は学会 HP：http://www.iaece.org/s08_studyGroup.html

■ 海外研修委員会

委員長 劉 郷英

海外研修委員会では、以下のような「国内外の保育施設の Virtual Tour 研修」を企画準備しています。

- ① 2022 年 11 月 3 日、古賀琢也理事により、千葉県習志野市にある「明德そでの保育園」にて実施
- ② 2023 年 5 月 or 6 月頃に、岡本礼子理事により、広島県廿日市市にある「アトリエ REI こども舎」にて実施する予定。

日程は未定ですが、福井事務局長及び山本会員による「タイのバンコク市内の保育施設」の Virtual 研修、劉郷英副会長による「中国の浙江省安吉県にある「安吉遊戯＝ANJI PLAY」プログラム実践園」の Virtual 研修も企画、予定されています。

■ 定款・規程検討委員会

委員長 森 貞美

2022 年 9 月に開かれた「2021 年度理事・評議員会」において、「役員候補及び役員選出規定」及び「学術貢献賞推薦委員会規程」が検討・承認されました。

■ 学術貢献賞推薦委員会

委員長 天野 美和子

9 月の理事会において、新たに学術貢献賞推薦委員の 3 名が承認されました。また、「学術貢献賞推薦委員会規定」および「学術貢献賞受賞者選考の内規」の案について、理事、評議員の皆様にご確認いただいたところ、いくつかの議論すべき課題も見えてきました。この課題については、次回の執行部会において議論していく予定です。引き続き、ご協力の程よろしくお願いたします。

日本の幼児教育の魅力

Attractiveness of Japanese early childhood education

四季を大切にした日本の幼児教育

小田原短期大学 竹内 直美

日本の幼児教育の特徴としては、お節句をはじめ日本の四季を大切に活動や伝統文化を取り入れていることがあげられます。情報社会が進展した近年、親などの保護者が携帯電話や TV の画面を見ている時間が、子どもと直接に顔を向かい合う会話やコミュニケーションを阻害する“PSD: Parent screen distraction”という概念が定義されて、その実態把握や子どもへの影響、さらに、保護者の養育スタイルとの関連などの調査研究が実施されています。

伝統文化を活かし大切にした日本の幼児教育が、

家庭での親子のコミュニケーション、地域社会での交流活動へと根付いていくことを確認していきたいと考えています。



日本の幼児教育を学ぶ中で

広島大学大学院 李 睿苗

留学生の李睿苗です。日本に来て 4 年間を経過しましたが、日本へ留学に来たことも自分が幼児教育という専門分野に触れるきっかけにもなりました。

この 4 年間の間、何となくいくつかの園を見学してきました（コロナ禍の影響で 2 年間見学ができなかったが）。教育というものは文化に影響されていると言われてるように、どの園を見ても中国人留学生としての私にとって、とても新鮮で色々と自分が今まで当たり前と思っていた幼稚園のありようと異なるものを発見してよかったです。同時に、それらの経験はさらに自分が馴染んでいた中国の文化を

再発見することにも繋がると実感しました。

いずれの園にしても共通して日本の文化が反映されている一方、それぞれに独特な園文化が形成され、また同じ園でも異なる先生が自分なりに子どもへのアプローチをきちんと持っています。そのような園への見学及び先生方との触れ合いを通し、幼児教育の奥深さを改めて考えさせられました。これからも外国人の立場からもっと多くの日本の園を見たく、もっと深くこういう日本の幼児教育の文化、広く言えば幼児教育の文化を自分の体で感じて行きたいと思います。



International Association of
Early Childhood Education

2021 年度決算報告 (2021 年 8 月～2021 年 7 月)

一般会計予算

単位：円

特別会計	学会功労賞	収入の部			支出の部					
		予算額	決算額	差額	費目	予算額	決算額	差額	備考	
		前年度繰越金	1,328,500	1,328,500	0	学会賞副賞	10,000	7,500	-2,500	山田千明氏
		その他収入	0	0	0	次年度繰越金	1,318,500	1,321,000	2,500	
		合計	1,328,500	1,328,500	0	合計	1,328,500	1,328,500	0	
特別会計	松原・金崎賞	収入の部			支出の部					
		予算額	決算額	差額	費目	予算額	決算額	差額	備考	
		前年度繰越金	2,350,000	2,350,000	0	学術賞副賞	50,000	0	0	松田こずえ氏
		その他収入	0	0	0	次年度繰越金	2,300,000	0	0	
		合計	2,350,000	2,350,000	0	合計	2,350,000	0	0	
一般会計	収入の部	予算額 (A)		決算額 (B)		差額 (B) - (A)		備考		
		前年度繰越金	1,683,133	前年度繰越金	1,683,133	0				
		会費収入		1,711,000						
		(1) 正会員		1,711,000						
		(2) 機関会員	1,960,000			-249,000			正会員内訳 3,000円×1人 7,000円×170人 14,000円×31人 21,000円×4人	
		(3) 賛助会員								
		ジャーナル投稿料		12,000						
		広告収入	0	0	0					
		売上収入	2,000	0	-2,000					
		利子	100	29	-71					
		雑収入(寄付等)	0	0	0					
		合計	3,645,233	3,406,162	-239,071					
一般会計	支出の部	予算額 (A)		決算額 (B)		差額 (B) - (A)		備考		
		事業費	1,106,550	1,071,810	-34,740					
		①大会費	500,000	500,000	0					
		②機関誌	396,550	396,550	0				28号	
		③会報	150,000	105,260	-44,740				73号、74号	
		④研究会	20,000	30,000	10,000					
		⑤支部活動	40,000	40,000	0					
		会議費	40,000	29,480	-10,520					
		印刷・製本代	150,000	11,340	-138,660					
		人件費	450,000	100,500	-349,500					
		交通通信費	350,000	179,590	-170,410					
		消耗品費	20,000	9,986	-10,014					
		諸雑費	250,000	88,590	-161,410					
		次年度繰越金	1,279,233	1,914,866	635,633					
		合計	3,645,783	3,406,162	-239,621					

2022 年度予算案 (2022 年 8 月～2023 年 7 月)

一般会計予算

単位：円

特別会計 (学会功労賞・学術貢献賞)

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	1,914,866	事業費	986,500
		①大会費	500,000
		②機関誌	346,550
会費収入	1,960,000	③会報	80,000
(1) 正会員		④研究会	20,000
(2) 機関会員		⑤支部活動	40,000
(3) 賛助会員		会議費	20,000
		印刷・製本代	20,000
		人件費	200,000
		交通通信費	350,000
広告収入		消耗品費	20,000
売上収入	2,000	諸雑費	550,000
利子	100	委託費(学会HP作成)	500,000
雑収入(寄付金等)		管理費(システム導入)	400,000
		次年度繰越金	830,466
合計	3,876,966	合計	3,876,966

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	1,321,000	2022年度副賞	7,500
その他収入	0	次年度繰越金	1,313,500
合計	1,321,000	合計	1,321,000

特別会計 (松原・金崎賞・研究奨励賞)

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	2,300,000	2022年度副賞	50,000
その他収入	0	次年度繰越金	2,250,000
合計	2,300,000	合計	2,300,000

支部報告

九州・沖縄・山口支部

支部長 椎山 克己

九州・沖縄山口支部では支部総会と支部研究会を下記の日程で予定しています。

支部総会 2023年2月26日(日) 14:00～ 久留米信愛短期大学

支部研究会 2023年3月12日(日) 14:00～ 近畿大学九州短期大学

今回の支部研究会は、今年度新しく会員になられた方の研究発表を予定しています。

現時点では対面で計画していますが、コロナ感染状況によっては開催方法を変更することもあります。

支部会員の皆様にはあらためて詳細を文書にてお知らせいたします。

【問合せ先】九州・沖縄・山口支部事務局：近畿大学九州短期大学久世研究室 kuse@kjc.kindai.ac.jp

部会報告



絵本部会

会長 宮地 敏子

絵本部会では、会員個々の発表の予定なども踏まえながら、今後、次年度の計画を決めていきます。活動予定などのお知らせは、随時部会メーリングリストにて配信いたします。絵本に興味・関心のある会員の皆さま、ぜひ絵本部会事務局までご連絡ください。

絵本部会事務局：玉川大学教育学部 松本由美研究室
ymat@lba.tamagawa.ac.jp



音楽部会

会長 椎山 克己

今年度の音楽部会の開催は2023年6月に開催するべく、準備を始めています。昨年度に引き続き、会員の研究から海外の音楽教育の紹介、海外に向けて発信できる日本の音楽教育の研究発表をテーマに開催いたします。発表を希望される方は2023年3月末日までに音楽部会事務局へメールにてお申し込みください。

【発表申込・問合せ先】

音楽部会事務局：近畿大学九州短期大学上田研究室
ueda@kjc.kindai.ac.jp



事務局からの お願い

会報やジャーナルの発送の際に返却されるケースが多く発生しております

新年度になりましたが、住所、所属先等の変更がある場合は、Mail 添付にて事務局までお知らせください。また、退会の手続きに関しましても、同様に「退会届」を Mail 添付にて事務局までお送りください。

国際幼児教育学会事務局：iaece.office@gmail.com

会員の方からの原稿を募集しています

- 1) 海外の幼児教育の現状の紹介
 - 2) 日本語で読める海外の幼児教育著書の紹介
- ※ 字数 300 字程度 (Word MS 明朝 10.5)

所属を明記の上、下記アドレスまでご応募ください。
今後の会報に使わせていただきます。

岡本 礼子：okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

発行人：中坪 史典

企画編集人：岡本 礼子 岡本 千春

岩手 萌子 津島 ひかる

発行所：国際幼児教育学会 事務局

〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1

神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育科

E-mail：iaece.office@gmail.com

www.iaece.org